

台風ハイエン被災地のタクロバン市内小学校にて防災教育授業を実施しました (2016/1/24-29)

テーマ：台風ハイエン、フィリピン、防災教育、小学校
場所：タクロバン市内小学校

2016年1月24～29日、特別研究プロジェクト拠点A「フィリピンの Build Back Better に向けた復興支援・減災プログラムの開発・実装」（研究代表者：井内加奈子）の一環として、当研究所 情報管理・社会連携部門の桜井愛子准教授、災害リスク研究部門の呉修一助教、人間・社会対応研究部門のマリ・リス助教と井内加奈子准教授により、フィリピン国タクロバン市の小学校において「Learning from Typhoon Yolanda Experiences to Save Future Lives」と題する防災教育授業を行いました。

タクロバン市内の沿岸部に立地する小学校は、2013年11月8日の台風ハイエンによって大きな被害を受けましたが、フィリピン政府に加え、国連や国際NGO、各国政府から学校建物の再建、仮設教室の提供、社会心理ケアなどの支援を受け、教育復興が進んでいます。防災教育については既存の教科への統合を図るべく教員研修などが行われ、地域コミュニティ組織であるBarangay（バラングイ）と連携した避難計画の構築なども進められています。

台風は小学5年生の理科で教えられていることを踏まえ、タクロバン市沿岸部近くに立地するFisherman's Village小学校、San Jose小学校、Manlurip小学校の3校において、小学6年生を中心に152名に対して、授業を行いました。タクロバン市教育局の協力を得て、対象校の選定を行いました。台風とは何か、台風ハイエンがなぜ大きな被害をタクロバン市にもたらしたのか、台風到来を予測することができるのか、台風情報をどのように入手し、理解することができるのか、台風情報を入手した後の避難行動や避難場所について、英語で60分の理科の授業を行いました。授業では、英語やタガログ語のスライドに動画や写真、図等を用いてわかりやすく解説を行いました。授業前後で、台風の到来を事前に予測することができることに対する子どもたちの理解が深まったことが示されました。

2013年11月の台風ハイエン以降、東北大学災害科学国際研究所では緊急調査を行い、今年度は特別プロジェクト研究を通じて活動を行ってまいりましたが、今回の防災教育授業の開催により、これらの成果を現地小学校の子どもたちへ還元する機会となりました。



文責：桜井愛子（情報管理・社会連携部門）、呉修一（災害リスク研究部門）、
マリ リズ・井内加奈子（人間社会対応部門）